

強者の戦略

東大日本史のみかた 48 [問題編]

第 48 回となる今回は 2021 年の東大日本史の第 4 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、しっかり問題を考えてみてください。

【2021 年度 東京大学 文科前期 第 4 問】

1869 年に、公卿・諸侯の称を廃止し、華族と称す、として誕生した華族は、1947 年に廃止されるまで、士族や平民とは区別された存在であった。それに関する次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えなさい。

(1) 公爵に叙せらるべき者

- 一、親王諸王より臣位に列せらるる者
- 一、旧摂家
- 一、徳川宗家
- 一、国家に偉勲ある者

(「華族叙爵内規」1884 年より抜粋)

(2) 第 34 条 貴族院は貴族院令の定むる所に依り皇族華族及勅任せられたる議員を以て組織す

(「大日本帝国憲法」1889 年)

(3) 第 36 条 何人も同時に両議院の議員たることを得ず

(「大日本帝国憲法」1889 年)

(4) 第 12 条 華族の戸主は選挙権及被選挙権を有せず

(「改正衆議院議員選挙法」1900 年)

設 問

A 1884 年に制定された華族令は、公・侯・伯・子・男の 5 つの爵位を設けただけでなく、華族の構成に大きな変化をもたらした。その変化はどのようなものであり、またそれはどのような意図でなされたのか。3 行以内で述べなさい。

B 1924 年に発足した清浦奎吾内閣は、衆議院を解散したため、衆議院議員総選挙が行われた。これに対し、立憲政友会の総裁で、子爵であった高橋是清は、隠居をして、貴族院議員を辞職した上で、衆議院議員総選挙に立候補した。高橋がこうした行動をとったのはどうしてか。この時期の国内政治の状況にふれながら、3 行以内で述べなさい。